

< 天網恢恢 >

ポンポン山買取り疑惑

2003年2月6日、大阪高裁は判決で田辺朋之元京都市長に26億1000万円の返還命令を下した。このポンポン山買取り疑惑とは

1992年、京都市西京区のポンポン山のゴルフ場予定地を、京都市が開発業者から47億5623万円で買い取った。この価格は不当に高すぎるとして議会審議でも大問題になったが、買取りを強行。市民が田辺元市長らに適正価格との差額の返還を求めて裁判で争われていた。

疑惑の経過

1992年 3月 京都市がポンポン山所有者から申請のあったゴルフ場建設を不許可、業者から市にたいし損害補償請求、京都市が買い上げることを決定、5月市会に提案
5月 市会で買取り議決（47億5623万円）
6月 参院選告示直前に市が代金を払い込み
1993年 2月 土地を所有する北摂カントリークラブ解散
2001年 1月 京都地裁判決 田辺元市長に4億6千万円余の返還命令

2003年 2月 大阪高裁判決 26億1000万円の返還命令
2005年 9月 最高裁第1小法廷は15日、前田辺市長側の上告を受理しないと決定。高裁判決が確定

< 疑惑その1 > 北摂カントリークラブの実質オーナーで資金提供者は金丸系企業の丸金コーポレーションであり、丸金コーポレーションの社長渡辺金男氏は山梨県会議長もつとめ、自民党金丸信副総裁後援会の副会長、しかも渡辺氏が東京永田町に所有する「パレロワイヤル永田町」は金丸信事務所があり、彼が巨額脱税事件で債権や金の延棒の隠し場所として捜索された拠点であった。京都市の法外の高額な買い取り資金が振り込まれたのは1992年7月の参議院選挙目前。そして翌年2月には北摂カントリークラブは解散。 ???

< 疑惑その2 > 92年5月市会に急遽「簡易裁判所における調停和解による市の買い取り」が提案され可決された。（共産党以外は賛成）しかし、この「調停和解」方式というのは裁判所の判決同様の強制力を持つものではなく、一方が拒否すれば不成立となるもの。しかし佐藤達三助役は「この和解提案を決めていただかなければ転売のおそれがありゴルフ場にされてしまう」と議会を脅迫して与党が賛成に回ったので議決された。「ゴルフ場にされてしまう」ことで利益があがるなら北摂カントリークラブ自らが開発してもうけるはずであり、転売のおそれはなかった。 ???

< 疑惑その3 > 自治体が公有地として買収をするときは不動産評価委員会にはかって適正な買い取り価格を算

「天網」とは、天が世の理非を正すために張った網のこと。「恢恢」とは、広く、ゆったりとしているさま。「天網恢恢疎而不漏」（老子）とは、天網の目は粗いが決して悪人を逃しはしない、という意味

定する事が基本。京都地裁判決でも細見鑑定士（関西総合鑑定所）の鑑定結果は信用できない、としているが、正規の条例にもとづく市の不動産評価委員会にかけずに一社（細見鑑定士）鑑定で法外な価格につり上げる操作がおこなわれた。 ???

< 疑惑その4 > 当時この問題の指揮をとった建設省派遣の京都市助役佐藤達三氏の前歴は山梨県議会の議事課長。果たして山梨県会議長をつとめた渡辺金男氏や金丸副総裁とは無関係といえるのか。 ???

事件の後日談 佐藤達三元助役の熊本市長選出馬

結局この事件は田辺元市長に巨額の返還命令がくだされたことで決着を見たが、市民1世帯あたり約1万円にもなる47億5623万円の金の流れは未解明のまま。いまや金丸自民党副総裁に真相を問いただすすべもない。

ところが、である。2005年暮近くに私に熊本から電話が入った。「くまもとTODAY」という地元紙（月刊）記者がいうには「来年の秋行われる熊本市長選挙に佐藤達三氏が立候補表明しているが、あなたのホームページ（論戦シリーズ「ポンポン山疑惑」）を見ると、とんでもない人物らしい。真相を教えてほしい」とのことであった。私は京都市政の問題点のいくつかについて「論戦シリーズ」としてパンフレットにして市民・有権者に配布し、ホームページで公表してきた。（同和行政・医療制度・ゴミ行政・教育行政・高速道路等々）

ここで佐藤達三氏の経歴を見ると、熊本高校卒、東大法学部卒、細川護熙氏が熊本県知事当時の県総務部長、福岡県副知事、全国市議会議長会事務総長とまさに自治省官僚のエリートコースを歩いてきた人物である。

2006年2月号の「くまもとTODAY」1面は「隠された素顔（現職・対立候補）のお粗末さ」の見出しで佐藤達三氏の黒い経歴が（私のホームページから）「京都ポンポン山買取り疑惑」として詳しく紹介された。そして秋の熊本市長選。京都

からは熊本からの要請
くまもとTODAY 2月号 No.161
隠された素顔（現職・対立候補）のお粗末さ

で疑惑解明にかかわったメンバーの一員が現地に赴き佐藤達三候補の「罪状」を報告、結果は佐藤達三氏の惨敗となった。まさに「天網恢恢疎にして漏らさず」である。

